

エコ地域デザイン研究センター

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2018年度大学評価結果総評】(参考)

エコ地域デザイン研究センターは、同時にいくつものプロジェクトを遂行し、着実に研究成果をあげており、総合的に見て高く評価できる。学外組織との連携を非常に積極的に行っていることは高く評価できる。しかしながらここ数年外部資金の獲得額が少なくなっており、このことが研究活動に悪い影響を与えることが危惧される。外部資金獲得のためにさまざまな取り組みを行っていることは評価できるが、さらに一層の努力が期待される。また優れた研究成果をあげているにもかかわらず、2017年度はウェブサイト上での情報発信が滞りがちだったことも悔やまれる。2018年度にはウェブサイトの更新頻度を向上させ、ネット上での情報発信にも力を入れることは、外部資金獲得の上でも重要なことだと思われる。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2018年度は、複数プロジェクトの遂行や研究成果について、総合的に高評価をいただいた。特に「外部組織との連携への積極性」は、本センターの特色/長所であり今後も継続したいと考えている。また、良好な体制を維持し、各プロジェクトは今後3年間の計画をたて実行に移していくことを計画している。現在の地域プロジェクトからテーマによるプロジェクトへの再編も検討にいれ、幅広い視野での研究成果を期待している。

以前から危惧されている外部資金の獲得については、引き続き尽力しており2018年度は「千代田学」にて獲得した。ウェブサイトの更新も一昨年よりも頻繁に行い、さらに外部の方々の関心及び見易さを考慮し、サイト自体を一新した。このように情報発信にも注力し、外部資金獲得のためにも尽力した。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

現在のエコ地域デザイン研究センターにおける「地域プロジェクトからテーマによるプロジェクトへの再編」の検討が挙げられているが、2019年度目標に設定された「テリトリーオ概念をテーマとした研究会の開催」がその一環であるとすれば、対応が適切に行われていると判断できる。「テリトリーオ」のような新しい概念の啓蒙普及は、結果として研究所の社会的イメージの強化にもつながるため、今後の発展を期待したい。また、ウェブサイトの発進力向上なども含めて、今後の外部資金の獲得機会が増加することも合わせて期待したい。

II 自己点検・評価

1 研究活動

【2019年5月時点における点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 研究所(センター)の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。

2018年度の活動状況について項目ごとに具体的に記入してください。

①研究・教育活動実績(プロジェクト、シンポジウム、セミナー等)

※2018年度に実施したプロジェクト、シンポジウム、セミナー等について、開催日、場所、テーマ、内容、参加者等の詳細を簡条書きで記入。

【シンポジウム】

- ・法政大学江戸東京研究センター特別対談企画「日本問答・江戸問答」
 - 日時；2018年4月21日
 - 会場；法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎6階 さったホール
 - テーマ内容；江戸文化・日本文化を近代西洋的思考法とは異なる分析方法で理解し、日本の独自性や江戸のユニークさについての知見を深める
 - 主催；法政大学江戸東京研究センター
- ・水都をめぐる日伊シンポジウム 水の都市と持続可能な発展 ヴェネツィアと東京
 - 日時；2018年6月28日(木)
 - 会場；イタリア文化会館アネッリホール
 - テーマ内容；歴史的に形成されたそれぞれの個性豊かな水都は、新たな時代に向け、社会的、経済的、文化的な観点から持続可能な発展をいかに実現していけるのか、また、防災の観点も考慮しながら、魅力的な水の都市をいかに維持し、創り上げていけるのかなど、これらの大きな課題を専門家が討論。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・「千代田区区民集会勉強会」コーディネート（まちふねみらい塾）

 - 日時；2018年4月11日/7月27日/10月28日
 - 会場；千代田区役所区議会会議室
 - テーマ内容；千代田区の水辺空間
- ・「首都高速都心環状線の竹橋から江戸橋部分の再開発を利用して日本橋川を覆う高架道路を撤去し、地下化する」ことについて（まちふねみらい塾）

 - 日時；2018年4月23日/7月9日/2019年2月1日
 - 会場；中央区環境情報センター
 - テーマ内容；「日本橋に空を取り戻し。東京の堀と川の再生を考える」講師による問題提起と意見交換
- ・「水都・江戸東京のグリーンインフラ」～東京五輪に向けて江戸から何を学ぶか～

 - 日時；2017年7月11日（日）
 - 会場；法政大学市ヶ谷地 ボアソナータワー スカイホール
 - テーマ内容；法政大学取り組んできた「水都・江戸東京」において、すでに日本型のグリーンインフラの手明かりが見出されてきた。グリーンインフラを考える上でも「水都論」は一つの方法論になり得る。改めてこれまでの水都・江戸東京と取り組みを紐解き、未来に向けた視点で紡ぎ直したい。東京が目指すべきオリンピックレガシーは如何にあるべきか。ロンドンのオリンピックレガシーとして実装されたグリーンインフラから何を学ぶか。江戸東京の歴史を踏まえて、お濠と玉川上水への取り組みを軸に東京の目指すべきグリーンインフラを探ることとする。
- ・「音風景→まちづくり：土地の記憶を発掘・継承・発信する！」

 - 日時；2018年7月22日
 - 会場；青山学院アスタジオ地下ホール
 - テーマ内容；青山学院大学総合文化政策学会主催
第1部. SCAPEWORKS 円山町、池の畔の遊歩音楽会/第2部. プロジェクトの意味を考える
- ・水系と音風景がツナグ善福寺川と小菅村～土地の記憶を発掘・継承・発信～

 - 日時；2018年11月4日
 - 会場；井荻會館
 - テーマ内容；報告1〈池の畔の遊歩音楽会〉による旧井荻村環境文化資源の発掘
報告2 玉川資源の玉姫伝説の神楽づくり
- ・「無段差社会創生プロジェクト」調査及びシンポジウム（まちふねみらい塾）

 - 日時；2018年11月10日
 - 会場；中央区環境情報センター
 - テーマ内容；独自行車椅子利用における道路等におけるバリアフリー施設の問題点
モデルエリアの調査報告とバリアフリーマップへの反映
障害者・高齢者等対象の次世代モビリティに関する調査
車椅子と視覚障害の通行上の相反関係に改善に向けての研究
日本都市環境デザイン会議への助成研究報告
- ・世田谷区グリーンインフラ～グリーンインフラってなあに？～せたがやのグリーンインフラを考えよう

 - 日時；2018年12月15日
 - 会場；成城ホール
 - テーマ内容；5大学連携の研究会・世田谷区みどり33 推進担当及び土木部による施策紹介、涌井史郎氏（東京都市大学特別教授）による基調講演、官学民連携によるグリーンインフラ研究の発表やパネルディスカッション、展示
- ・第2回 多摩川流域歴史シンポジウム『多摩川流域の中世』

 - 日時；2019年2月9日
 - 会場；狛江市中央公民館 地下ホール
 - テーマ内容；多摩川と人間との関わりの歴史を掘り起こし、多摩川らしさとしての地域文化を再発見することを目的として、これまで4回にわたり「中世」をテーマに多摩川流域歴史セミナーを開催してきました。中世の締めくくりとして、第2回多摩川流域歴史シンポジウムを開催
- ・江戸基層シンポジウム「古代・中世の府中から武蔵国を探る」

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- 日時；2019年3月23日
- 会場；法政大学 市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート校舎
- テーマ内容；現代の東京にも引き継がれる武蔵国の地歴を探る
- ・地域から外濠の再生を考える
 - 日時；2019年3月25日
 - 会場；法政大学外濠校舎薩埵ホール
 - テーマ内容；基調講演「外濠文化の可能性」/田中優子（法政大学総長）
 基調講演「グローバル都市東京における外濠・神楽坂」/松本洋一郎（東京理科大学学長）
 報告「外濠 vision2036 ならびに外濠再生憲章について」/福井恒明（外濠再生懇談会）
- 【イベント】
- ・都市創造のポリティックス 渋谷・青山のこれまでの10年/これからの10年
 - 日時；2018年4月29日
 - 会場；青山学院アスタジオ地下ホール
 - テーマ内容；青山学院大学総合文化政策学会主催 総文10周年記念事業第1回トークセッション
- ・第9回外濠市民塾「いま、外濠をどうするのか？～浚渫からかいぼりへ～」
 - 日時；2018年7月15日
 - 会場；DNP プラザ（東京都新宿区市谷田町1-14-1 DNP 市谷田町ビル）
 - テーマ内容；1 新見附濠調査（2018年4月14日実施）報告 /調査概要（外濠市民塾実行委員会）/調査の振り返り（三輪田学園外濠フレンズ）
 2 井の頭公園かいぼり事業について（片岡友美・認定NPO 法人生態工房理事）
 3 外濠 2020-2036 ワークショップ
- ・源始神楽「玉姫」
 - 日時；2018年8月18日
 - 会場；小菅村 玉川キャンプ場
 - テーマ内容；奥多摩湖の水をつくる水源として東京都民にとって大事な地域です。しかし、過疎化が進み森林の荒廃が進み、水源林の再生が課題となっています。法政大学エコ地域デザイン研究所が発足して最初のプロジェクトの一つとして小菅村山村再生の活動を始めました。現在は鎌倉時代初期からこの地域に残る「玉姫伝説」が玉川の語源説ともなっていることに着目し、これを神楽として村に残し、多摩川の水源地保全の意義を広く伝えていく活動に取り組んでいます。古来からの呼び名である「玉川」の原点を探る企画
- ・源始神楽「玉姫」
 - 日時；2018年9月22日
 - 会場；狛江市中央公民館ホール
 - テーマ内容；神楽公演「源始神楽・玉姫」/セミナー「玉川語源考」
- ・丸の内 de 夏の大学トーク 歌川広重の声を聴く 風景への眼差しと現代の都市
 - 日時；2018年7月27日
 - 会場；東京駅前 新丸ビル10階) 京都アカデミアフォーラム in 丸の内
 - テーマ内容；阿部美香『歌川広重の声を聴く』が刊行されたのを機に、江戸東京の名所、都市空間、風景、などをテーマに 京都との比較も入れながら、トークをしようという内容
- ・パブリック・プロデュース
 - 公共的空間を作る7つの事例— Public Produce —7 cases producing a public space—
 - 日時；2018年7月30日
 - 会場；法政大学 新見附校舎 A305教室
- ・外濠暑熱環境観測プロジェクト「包括的な24時間 暑熱環境観測」
 - 日時；2018年9月28日
 - 会場；市ヶ谷・飯田橋地域（新宿区・千代田区）
 - テーマ内容；学校法人 法政大学と一般財団法人 日本気象協会は首都大学東京、国立環境研究所と共同で、地球温暖化やヒートアイランド現象の進行による都心部での夏の暑熱環境の実態を明らかにするため、高所と地上のさまざまな視点から多数の赤外カメラなどを使った24時間の観測を行い、都市の熱さを「見える

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

化」した

- ・近未来都市研究 (Future City Lab. Tokyo) による研究会
「小さい流れに 肩入れをする ---- 近未来の都市と建築の構想 ----」
■日時; 2018年10月29日
■会場; 法政大学 市ヶ谷田町校舎 5F マルチメディアホール
■テーマ内容; 講義内容 1 コンパクトシティは「猫に鈴をつける」試み/2 縮小時代の地域の面倒をみるのは誰か CMA (地域経営組合) 構想/3 大きい流れと小さい流れ/4 建築家の可能性と限界
- ・池の畔の遊歩音楽会 2018 -音のすむ森に捧ぐ! No. 9
■日時; 2018年11月18日
■会場; 都立善福寺公園
■テーマ内容; 池の畔を歩きながら体験する各種の活動・パフォーマンス
- ・市民が選ぶ玉川上水と分水網関連遺構 100 選プロジェクト
■日時; 2018年12月1日
■会場; 法政大学 市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート棟 6階 G602 教室
■テーマ内容; 玉川上水と分水網関連遺構 100 選の公表 (市民団体) /
「玉川上水・分水網関連遺構 100 選について」
西村 幸夫氏 (プロジェクト未来遺産委員長 神戸芸術工科大学教授) /
パネルディスカッション 「玉川上水・分水網の関連遺構」
- ・第4回外濠再生懇談会
■日時; 2019年1月16日
■会場; 東京理科大学森戸記念館
■テーマ内容; 外濠に関連する活動報告と情報共有、シンポジウム「地域から外濠の再生を考える」開催について、外濠 vision2036 及び外濠再生憲章 (案) について

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②対外的に発表した研究成果 (出版物、学会発表等)

※2018年度に刊行した出版物 (発刊日、タイトル、著者、内容等) や実施した学会発表等 (学会名、開催日、開催場所、発表者、内容等) の詳細を簡条書きで記入。

【刊行書籍】

- ・『大江戸 知らないことばかり』(NHK 出版)
発刊日; 2018年5月
著者; 陣内秀信 (共著)
内容; 東京の原点・江戸は 260年間続いた空前の都。奇跡とも呼ばれるこの巨大都市を築き、支え、救ったものとはいったい何だったのか。最新の調査・研究をもとに、知られざる真実の姿に迫る。
- ・『イタリア海洋都市の精神』(講談社)
発刊日; 2018年10月
著者; 陣内秀信
内容; 海は障壁であると同時に、交流を育む道でもあった。中世地中海世界では、ローマ、ビザンツはもちろん、イスラーム世界の先進文化もヨーロッパへ流れ込んだ。ヴェネツィア、アマルフィ、ピサ、ジェノヴァの四大海洋都市をはじめ、南イタリアのガッリーポリやクレタ島のハニアなどを歩き、建物、街路、広場、港の風景を観察しながら、繁栄の歴史を探る。
- ・『みる・よむ。あるく 東京の歴史4』(吉川弘文館)
発刊日; 2018年9月
著者; 陣内秀信 (吉田伸之他と共編著)
内容; 東京駅を有す丸の内、官庁の建ち並ぶ霞ヶ関、花街の赤坂・神楽坂、土器名称の弥生町。都心に位置に、首都の役割を担いながら、濃密に過去の面影を残しています。何がどう受け継がれ、今を形づくったのでしょうか。
- ・『みる・よむ。あるく 東京の歴史5』(吉川弘文館)
発刊日; 2018年9月

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

著者；陣内秀信（吉田伸之他と共編著）

内容；江戸東京の中心日本橋から京橋・銀座、市場で賑わう築地、大寺院が織りなす人気観光地浅草・上野、水路が巡り震災・戦災の記憶が漂う本所・深川。江戸の余韻を湛えつつ、新たな歴史を築く隅田川周辺の特徴をさぐります。

・『歴史 REAL 大江戸の都市力』（洋泉社）

発刊日；2018年10月

著者；陣内秀信、高村雅彦

内容；人口100万人を抱える世界屈指の大都市となった江戸。経済や教育でも江戸は世界トップクラスの水準を誇った。鎖国政策を敷く小さな島国の一都市ながら、江戸はなぜこれほど豊かな都市になることができたのだろうか。その理由を、江戸独特の地形や、それを活かした都市づくりという新たな観点で探る、新しい江戸学。第一線で活躍する江戸研究者たちが独特の視点で、江戸の世界に誇れるまちした“都市力”を解説する。

【論文】

- ・ K. Michioku, K. Tanaka, H. Tanaka, K. Inoue, T. Nakamichi, M. yagi, and N. Wada: An Experiment on Simultaneous Operation of Nitrification and Denitrification of Municipal Landfill in a Single Reaction Tank. WIT Transaction on Ecology and Environment, WIT Press Vol.228, pp.131-143, ISSN 1743-3541, 2018.5
- ・ K. Michioku, Y. Osawa, K. Kanda, :Performance of groyne in controlling flow, sediment and morphology around a tributary confluence, 9th Intl. Conf. on Fluvial Hydraulics, RIVER FLOW 2018, E3S Web of Conference 40, 0406, pp.1-8
- ・ K. Michioku, K. Tanaka, H. Tanaka, K. Inoue, T. Nakamichi, M. yagi, and N. Wada: A Numerical Model for Denitrification of Municipal Landfill Leachate and Parametric Analysis on Denitrification Controlling Factors, 9th International Conference on Waste Management and the Environment, WASTE MANAGEMENT 2018, 2018.9
- ・ 小川陽・道奥康治・北條幸雄, 万力林の洪水制御機能に関する平面二次元水理・流砂解析, 第73回土木学会年次学術講演会, 2018年9月
- ・ 岡本吉弘・西尾潤太・久保裕基・神田佳一・道奥康治, 水制形状による河川合流部での流れ及び河床変動特性の変化に関する研究, 第73回土木学会年次学術講演会, 2018年9月
- ・ 陣内秀信「水の視点から読む武蔵野の原風景」, 『武蔵野樹林』第1号, pp.30-35, 角川文化振興会, 2018年10月
- ・ 石渡雄士「新刊紹介 渡邊大志著『東京臨海論-海から見た都市構造史-』」, 都市史学会編『都市史研究5』, p.112, 山川出版社, 2018年12月
- ・ 安達幸輝・福井恒明「住民の自伝的記憶から読み解く地域の風景-新潟市佐潟を対象に-」, 『景観デザイン研究・講演集』, pp.54-61, 2018年12月
- ・ 外山実咲・田中咲・福井恒明「神田神保町古書店街の発生と変遷」, 『景観デザイン研究・講演集』, pp.22-28, 2018年12月
- ・ 福井恒明「明治からの新聞記事における外濠」, 『東京人』, 2019年1月号, pp.62-63, 都市出版, 2018年12月
- ・ 陣内秀信「江戸東京の心臓部、中央区の醍醐味」, 『本郷』139号, 吉川弘文館, pp.11-13, 2019年1月
- ・ 鳥越けい子「土地の記憶の発掘・敬称・発信の試み：サウンドスケープの考え方と日々の活動から」, 『高岡芸術文化都市構想・都萬麻Ⅱ-02』, pp.14-23, 2019年3月

【報告書】

- ・ 「日証館 川テラス・船着場の実現に向けた調査・検討」, 2018年5月

【その他】

- ・ 朴賛弼「アルミ屋根の放熱効果による雪下ろしの研究」, 日本民族建築学会第45回大会, 鹿児島大学, 2018年9月6日
- ・ 石渡雄士「港湾都市横浜の空間形成史」, 一般社団法人日本民族建築学会, 第85回研究会, 法政大学, 2018年7月21日
- ・ 朴賛弼「アクアレイヤーの床暖房システムによる温熱環境改善の研究」, 日本建築学会大会学術講演会, 東北大学, 2018年9月6日
- ・ 朴賛弼「1970年代韓国の農村集落と民家」, 日本民俗建築学会第86回研究会, 法政大学, 2018年9月29日
- ・ 朴賛弼「世界遺産 琉球の首里城 World heritage Shuri Castle in the Ryukyu」, One Shot Nuaka21 この一枚, 『民族建築』第154号, 日本民俗建築学会, 2018年11月
- ・ 朴賛弼「世界の街道をゆく-ソウル清溪川-」, テレビ朝日 2018年12月4日, 写真提供
- ・ 朴賛弼「グローバルネット」, 地球・人間環境フォーラム, 2018年12月, インタビューコメント
- ・ 小杉千織・福井恒明「江戸の空間認識と地形-江戸名所図会を対象に-」, 第14回景観・デザイン研究発表会（ポスター

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| |
|---|
| <p>発表), 長崎市民会館, 2018年12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大迫和己・福井恒明「都市部における文化的景観と住民の活動-「葛飾柴又の文化的景観」を対象として-」, 第14回景観・デザイン研究発表会(ポスター発表), 長崎市民会館, 2018年12月 |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |
| <p>③研究成果に対する社会的評価(書評・論文等)</p> |
| <p>※研究所(センター)がこれまでに発行した刊行物に対して2018年度に書かれた書評(刊行物名、件数等)や2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |
| <p>④研究所(センター)に対する外部からの組織評価(第三者評価等)</p> |
| <p>※2018年度に外部評価を受けている場合には概要を記入。外部評価を受けていない場合については、現状の取り組みや課題、今後の対応等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質保証活動は運営委員会において実施している。 ・運営委員会の構成員はセンター長・副センター長を含め17名の兼任研究員及び客員研究員であり、議題に応じてはオブザーバーの参加も規定上認められている。運営委員会では各委員からの報告を受け、それに応じて広く議論を行い、研究活動の質の向上に努めている。 ・イベントやシンポジウムでのアンケートを中心に、学内外を問わず、幅広い立場の方々からの意見や指摘を受ける体制を整えている。加えて、各プロジェクトでは、地元の町会や企業、行政との連携が取られているため、事業内容についてその都度評価を受ける柔軟な体制が築かれている。 |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |
| <p>⑤科研費等外部資金の応募・獲得状況</p> |
| <p>※2018年度中に応募した科研費等外部資金(外部資金の名称、件数等)および2017年度中に採択を受けた科研費等外部資金(外部資金の名称、件数、金額等)を簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度「千代田学」(千代田区内にある短期大学、大学、大学院等の研究機関が千代田区の様々な事象を多様な切り口で調査・研究し、その定着と発展、また、各学校が区及び地域と連携を図ることを目指して、事業経費の一部を補助するもの)に下記の事業が採択。 <ul style="list-style-type: none"> ■九段・神保町地区の地域資料アーカイブ化とその表現に関する調査・研究 福井恒明 エコ地域デザイン研究センター ■概要: 神田神保町地区および九段地区の地域史に関する資料を収集・整理する。これらを容易に確認できるアーカイブシステムをウェブサイト上に構築し、収集した資料に必要な加工を施した上でシステムに実装し、資料の閲覧性を高める。また収集した資料をもとに神田神保町地区および九段地区の地域史を容易に理解できるヴィジュアル表現を提示する。(事業実施期間 2018年4月1日から2019年3月31日) |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |

(2) 長所・特色

| 内容 | 点検・評価項目 |
|---|---------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・当センターは、学内外の研究者と連携した研究活動が活発であり、さらに連携対象が研究者に限らず、地域住民・行政・企業・教育機関と多岐に渡ることが特色といえる。また、多くのプロジェクトに地元の住民や行政・企業が関わり、活動に対するフィードバックを受けやすい体制にある。 ・運営委員会は、文理にわたる専門性を持つ研究者から構成されており、多角的な視点による研究活動を推進することができる。 ・各プロジェクトでは、これまで蓄積してきた成果や研究者のネットワークを活かしながら、対外的に多くの活動を行っている。さらにシンポジウムや論文執筆、報告書刊行により、研究成果の社会的還元を積極的に行っている。 | |

(3) 問題点

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|---|---------|
| 平成 29 年度私立大学研究ブランディング事業「江戸東京研究の先端的・学祭的拠点形成」の採択を受けることができたが、これはエコ地域デザイン研究センターを直接的に支える外部資金ではないため、独自の外部資金を獲得する必要がある。千代田学事業については引き続き 2019 年度も採択を受けているものの、限定的なテーマを対象とした比較的少額の単年度事業である。センターの主要な活動を担保できるような科学研究費等の外部資金の申請を引き続き行う。 | |

【この基準の大学評価】

| |
|---|
| シンポジウムの実施回数（12 回）や、その他イベントの開催数（11 回）については、単に回数のみならず、内容の多様性という点で、エコ地域デザイン研究センターの活発な活動を端的に示すものと高く評価できる。研究発表状況も、著書（5 編）、論文（12 本）、報告書・その他（10 編）と相当量の成果発表がなされている。成果に対する社会評価欄は「特になし」となっているが、著書の書評等が出るまでには時間がかかることも多いため、引き続きチェックを行って欲しい。外部からの組織評価は受けていないものの、兼担・客員教員の比率が高い運営委員会では、各活動に対する他分野からの客観的な議論が可能であると推察できる。外部資金については、2007 年度より継続して採択されている「千代田学」事業に 2018 年度も採択されたが、比較的少額の単年度事業とのことなので、今後、更に多方面への申請を検討し、研究の向上のための資金獲得へ向けた取り組みが強化されることを期待したい。 |
|---|

III 2018 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

| No | 評価基準 | 研究活動 | | | | | | | |
|----------------|--|--|----------------|--|------|---|----|--|-----|
| 1 | 中期目標 | ・玉川府中プロジェクト：古都府中の基層を探り江戸と近世府中の繋がりを探る。研究チームによる隔月の研究会を行う。 | | | | | | | |
| | 年度目標 | ・玉川府中プロジェクト：研究会を行い、郷土資料館や教育委員会の連携を取り、古都府中の理解を深める。 | | | | | | | |
| | 達成指標 | ・玉川府中プロジェクト：シンポジウムの開催や報告集の作成、歴史だけでなく自然や地形及び生態系を取り入れた絵図の作成を行う。 | | | | | | | |
| | 年度末報告 | <table border="1"> <tr> <td colspan="2">執行部による点検・評価</td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>定期的に研究会を行い、2 月には年度報告書を刊行した。府中市の郷土資料館や文化財課とも連携し、3 月 23 日には基層シンポジウムを開催予定である。目標は概ね達成されたといえる。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>歴史や自然、地形生態系を取り入れた絵図の作成については、現在企画検討中である。今後の活動で作成していく。</td> </tr> </table> | 執行部による点検・評価 | | 自己評価 | A | 理由 | 定期的に研究会を行い、2 月には年度報告書を刊行した。府中市の郷土資料館や文化財課とも連携し、3 月 23 日には基層シンポジウムを開催予定である。目標は概ね達成されたといえる。 | 改善策 |
| 執行部による点検・評価 | | | | | | | | | |
| 自己評価 | A | | | | | | | | |
| 理由 | 定期的に研究会を行い、2 月には年度報告書を刊行した。府中市の郷土資料館や文化財課とも連携し、3 月 23 日には基層シンポジウムを開催予定である。目標は概ね達成されたといえる。 | | | | | | | | |
| 改善策 | 歴史や自然、地形生態系を取り入れた絵図の作成については、現在企画検討中である。今後の活動で作成していく。 | | | | | | | | |
| No | 評価基準 | 社会連携・社会貢献 | | | | | | | |
| 2 | 中期目標 | ・外濠市民塾：シンポジウムや講演会を行うことで、認知度をさらに高め、周辺地域と連携した活動を行っていく。 | | | | | | | |
| | 年度目標 | ・外濠市民塾：地元住民、地元企業や地元の教育機関との連携を深め、より良い関係を築いていく。これまでの活動を総括し、社会的にアピールするためのシンポジウムを開催し、報告書を発行する。 | | | | | | | |
| | 達成指標 | ・外濠市民塾：周辺大学や周辺企業と協働し、シンポジウムを開催する。 | | | | | | | |
| | 年度末報告 | <table border="1"> <tr> <td colspan="2">教授会執行部による点検・評価</td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>外濠市民塾については、報告書を作成しウェブサイト上で公開している。ワークショップ 2 回とシンポジウム 1 回を開催した。さらに玉川上水のの上流から下流までを含めた市民団体との連携が実現し、目標を十分に達成した。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>本年度に培った経験や繋がりをもとに来年度以降も継続した社会貢献・社会連携を行うことでこれまでよりも強い結びつきが必要となってくる。</td> </tr> </table> | 教授会執行部による点検・評価 | | 自己評価 | S | 理由 | 外濠市民塾については、報告書を作成しウェブサイト上で公開している。ワークショップ 2 回とシンポジウム 1 回を開催した。さらに玉川上水のの上流から下流までを含めた市民団体との連携が実現し、目標を十分に達成した。 | 改善策 |
| 教授会執行部による点検・評価 | | | | | | | | | |
| 自己評価 | S | | | | | | | | |
| 理由 | 外濠市民塾については、報告書を作成しウェブサイト上で公開している。ワークショップ 2 回とシンポジウム 1 回を開催した。さらに玉川上水のの上流から下流までを含めた市民団体との連携が実現し、目標を十分に達成した。 | | | | | | | | |
| 改善策 | 本年度に培った経験や繋がりをもとに来年度以降も継続した社会貢献・社会連携を行うことでこれまでよりも強い結びつきが必要となってくる。 | | | | | | | | |

【重点目標】

重点目標：外濠市民塾の活動総括と社会的アピールのためのシンポジウムの開催

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

目標を達成するための施策：

- ・東京理科大学、中央大学、三輪田学園、大日本印刷株式会社、株式会社 KADOKAWA、ヤフージャパン等との協働
- ・江戸東京研究センターのブランディング事業との共同作業

【年度目標達成状況総括】

今年度の年度目標は全て達成できた。外濠市民塾は、4月に三輪田学園とのワークショップを行い、7月には三輪田学園や中央大学、東京理科大学、大日本印刷株式会社と合同で発表会とワークショップを行った。12月には玉川上水流域のシンポジウム開催に実質的な支援を行い、初めて上流から下流までの市民団体の連携が実現した。地元企業や他大学との連携も深めており、3月25日には法政大学・東京理科大学の共同開催によるシンポジウムを開催する。これによりさらなる社会的アピールが期待される。

江戸東京研究センターとの実質的な連携により、本年度は5回のシンポジウムを開催し、研究発表を行った。特に玉川府中プロジェクトは多くの研究者と連携する事で、今後の活動についてさらなる発展が期待される。

以上のことから、年度目標は概ね達成した。次年度も継続して、研究活動と社会貢献の両軸を発展させていく。

【2018年度目標の達成状況に関する大学評価】

エコ地域デザイン研究センターにおける2018年度の目標は、研究活動については「玉川府中プロジェクト」の活動でほぼ達成されている。社会連携・社会貢献については「外濠市民塾」のシンポジウムやワークショップ等を通じて十分に達成されている。加えて初めて玉川上水の上流から下流までの市民団体との連携が実現した点は、高く評価できる。

IV 2019年度中期・年度目標

| No | 評価基準 | 研究活動 |
|----|------|---|
| 1 | 中期目標 | 都市とその周辺地域の成り立ちや関係性を、歴史文化・水循環などの観点から総合的に捉える新たな領域概念「テリトリーオ」を提示する。 |
| | 年度目標 | テリトリーオ概念に関する研究体制を構築し、活動を開始する。府中玉川・瀬戸内・新潟などのサイトの研究活動を通じ、「テリトリーオ」概念を構成する具体的な事象を整理し、共有する。 |
| | 達成指標 | テリトリーオ概念をテーマとし、各サイトの研究活動成果を持ち寄る研究会を開催する。 |
| No | 評価基準 | 社会連携・社会貢献 |
| 2 | 中期目標 | 学術的知見をもとに、近未来の都心部及び都心周縁部のあり方や具体的な地域の姿について、地域と共に議論し社会的な発信を行う。 |
| | 年度目標 | 都心部については外濠市民塾を中心に、地元住民、地元企業や地元の教育機関との連携を深め、より良い関係を築く。都心周縁部については研究者や地域と議論する体制をつくり、基礎的な知見を蓄積する。 |
| | 達成指標 | ・外濠市民塾を1回以上開催する。 ・テリトリーオに関する内容をテーマとした報告会を1回以上開催する。 |

【重点目標】

重点目標：テリトリーオ概念に関する研究体制を構築し、活動を開始する。

目標を達成するための施策：

- ・各研究対象地における研究成果の定期的な共有
- ・テリトリーオに関する研究会の開催
- ・江戸東京研究センターのブランディング事業との共同作業

【2019年度中期・年度目標に関する大学評価】

中期目標に掲げられた新たな領域概念「テリトリーオ」の提示を目指して、府中玉川（ウェブサイトでは「玉川・武蔵野テリトリーオ」）に加え、瀬戸内・新潟に関する研究グループも活動を開始するなど、研究活動に関する年度目標は適切に設定されている。現時点では『「テリトリーオ」概念を構成する具体的な事象を整理し、共有する』という段階ではあるが、どのような点において「新たな」領域概念であり、またその概念にどのような効用があるのか検証するためにも、数年後の成果を期待したい。社会貢献については、地域「外濠」に限定したワークショップ等で具体的なターゲティングに基づいた貢献が期待される。同時に、新概念「テリトリーオ」をテーマとする報告会を開催するなど、従来の活動の継承と新

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

規活動の導入のバランスが取れた年度目標設定だと評価できる。

【大学評価総評】

エコ地域デザイン研究センターでは、総じて、高い研究活動とその成果を社会に還元する活動を維持している。外部資金の獲得は継続的に行われているが、民間助成金も視野に入れた広範囲での獲得努力が望まれる。従来のプロジェクト体制はプロジェクト間の連携が弱く、エコ地域デザイン研究センター全体として寄り合い所帯的なイメージをぬぐえなかったが、新たな領域概念「テリトリーオ」のもとにそれらのプロジェクトを整理・統合することが計画され、そのための準備活動まで加味して考えると、2018年度の活動成果は高く評価される。この結果、エコ地域デザイン研究センターの社会的イメージがより明確化・強化され、新たな資金調達にもつながることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。